追跡

卵のまま厳しい季節をやり過ごす
明日という日の来ることの、あまりの確かさに

漆黒であることを許されぬ夜の中
遠くで泣きわめいている幼児

彼らは知っているのだろうか
萎み枯れてゆく社会というものが在り得る、と

ざらざらとした塩の結晶のような意識に
ふわりと被せられてゆく、ある願望

吐露するのではなく、ただひたすら掘削することで
確かな生の手ごたえを得ていたはず

リズムの存在そのものを放棄した、その時
あっという間に、歓びに満ちて暗闇を受け入れた理由とは何か

何ものかが得られないと知った時、本当に
それだけで、あの川を渡ることができるのだろうか

この手に残されたものを見つめながら
私は、枯渇というものの恐怖を感じた―――
ふいに、彼奴に肩を叩かれる、その時を

(2011.9.19)